

【ポスター発表】

ソーシャルワーカーの ICT 活用能力向上に向けた文献研究
ー利用者と協働したソーシャルワークの実現のためにー

○ 徳山大学 梅野 潤子 (会員番号 006808)

前田 瞬 (徳山大学・009253)

キーワード：ソーシャルワーカー、ICT 活用能力、利用者との協働

1. 研究目的

誰もが日常的に情報通信技術 (ICT) を活用する情報社会において、ソーシャルワーカーには、ICT 活用能力を醸成していくことが必要とされる。ここで言うソーシャルワークにおける ICT 活用とは、具体的には、インターネットを通じた最新情報の入手や、利用者との協働ツールとしての活用、実践に関する情報発信手段としての活用等を意味する。

一方、社会福祉領域においては、ICT の活用が遅れていると一般に言われている。例えば、岡山県児童相談所において導入されている電子アセスメントシステムが、ケースを担当しているソーシャルワーカーらによって十分に活用されていないという課題が報告されている (梅野ら 2017)。また、ソーシャルワーク記録作成におけるインターネット活用法を紹介した研修会 (2017 年 9 月 30 日、岡山ソーシャルワーカー協会主催) に対し、参加者のうち 92% が「今後活かせる」と回答している。自由記述においても、「文献検索等新たな方法を知ることができて良かった」「具体的な方法を教えてもらい、役に立つ」等との回答が目立ち、ICT 活用に関するソーシャルワーカーの研修ニーズの高さが伺える (参加者アンケート結果より)。しかし、ソーシャルワーカーの ICT 活用能力に関する調査研究は、わが国において緒に就いたところである。実践現場における ICT 活用の実態も十分に把握されているとは言い難く、今後、さらなる研究の推進が期待される。

そこで、本研究では、日本におけるソーシャルワーカーの ICT 活用能力を把握するための調査項目構築に向けた事前準備として、国内外の先行研究をレビューすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、「実践主導アプローチ (Practice-led approach)」を研究の中心に据える。実践主導アプローチとは、Hill & Shaw (2011) が掲げる、ソーシャルワークにおける ICT 活用のための「最善の実践 (Best Practice)」の一般原則であり、ソーシャルワークの目的達成のために ICT を活用することを指す。また、本研究においては、ソーシャルワーカーによる ICT の活用を、業務の効率化や専門職間による情報共有に留まらず、「利用者との協働を推進するツール」としても捉える。これらの視点を踏まえて、文献研究の手法を用い、先行研究のレビューを行う。

3. 倫理的配慮

本研究の遂行にあたり、日本社会福祉学会研究倫理指針に従った。また、本研究は、文献研究であるため、特定の個人を識別するような情報は掲載していない。

4. 研究結果

Kilpeläinen(2014:28-30)は、社会の変化に応じて、ソーシャルワーカーには、専門的技術の一つとして ICT 活用能力が必要とされることを指摘している。また、岡本(2016)は、理論と実践をつなぐための課題として ICT 活用を位置付けている。日本の社会福祉領域では、「地域包括ケアシステム」において、医療機関や福祉施設を情報通信ネットワークで結び、オンライン上で情報共有することが検討されている(厚生労働省 2004:4)。さらに、「児童相談所運営指針」において、ケース記録の電子化を行う等、ICT 活用の必要性が記述されている(厚生労働省 2018:45)。各分野において ICT 活用を政策的に推進する方向性が見られる。

一方、ソーシャルワークにおける ICT 活用を主題とした研究を見ると、Hill & Shaw(2011)による ICT とソーシャルワークに関する著書を代表とし、Kilpeläinen & Pyykkönen(2014)によるソーシャルワークにおける ICT 活用能力に関する研究成果が見られる。日本においては、西内(2014)によるソーシャルワークにおける ICT 活用の事例検討、梅野ら(2017)による児童ソーシャルワークにおける ICT 活用に関する文献研究、前田・小林(2017)による高齢者施設職員への ICT 活用度調査等の論文が散見される程度である。

ソーシャルワークにおける ICT 活用能力については、Kilpeläinen(2014:29)が、社会、資源、研究、革新の4領域を挙げている。日本において同様の研究は見当たらないものの、近隣領域である教育分野では、「教員の ICT 活用指導力の基準(チェックリスト)」(文部科学省 2017)が開発され、「授業中に ICT を活用して指導する能力」や「情報モラルなどを指導する能力」等の5領域及び、18のチェック項目から構成されている。

5. 考察

ソーシャルワークにおける ICT 活用は、新しい研究テーマであり、国内外ともに今後の研究成果が期待される状況にある。また、ソーシャルワークの一部としての ICT 活用の必要性については、研究や政策において認識されつつある。

今後は、具体的な ICT 活用事例の蓄積や ICT 活用に関する調査を通して、ソーシャルワーカーに必要とされる ICT 活用能力とは何かを明らかにし、その実態を把握することが求められる。

謝辞

本研究は、公益財団法人日本社会福祉弘済会「平成30年度社会福祉助成事業【研究事業】」並びに、徳山大学私立大学研究ブランディング事業の助成を受けて行われた成果の一部である。なお、参考文献については、紙面の都合上割愛し、当日資料にて掲載する。